

平成15年3月第25号

発行所 那珂郡東海村
村松 1292-2
茨城県弓道連盟
電話 (029-282-3580)

弓道いばらき

インターハイ特集



組織力・行動力で充実、発展を

茨城県弓道連盟会長

関 宗長

二〇〇三年が幕をあけました。弓友の皆様には、ご健勝でご活躍のことと存じます。新年が幸多い日々でありますようお願い致します。

お除様で創立以来半世紀が過ぎ、伝統を誇る呉弓連は昨年組織の改革を実施した結果、指導陣がより充実され運営活動が大変円滑になり質量ともに発展してまいりました。これは役員のご努力と負任の皆様のおかげだと心から感謝申し上げます。さて、希望に満ち溢れるはずだった二十一世紀も出口の見えない不況と社会全体を覆う閉そく感から脱しきれないまま、早くも三年目に入ってしまった。明るく活力溢れる年であってほしいと願わずにはいられません。

また、経済情勢に好転の兆が見えない中、経済や雇用情勢が一層深刻化しないとも言切れない不透明な時代を背景に、事件や事故の多発など社会的な混乱が増幅しかねないとも言切れないのです。

だが、試練を乗り越えた先に新しい時代が待っていることは歴史が証明しているところです。混んとし

た時代は希望に満ちた成熟へのプロローグかも知れません。試練の時こそ英知を問われるのではないのでしょうか。

だからこそ、役員も会員も意識を新たに。伝統武道である弓道の原点をみつめ、しっかりと目標を定め、弓道発展のために何をすべきかを再確認していただきたいのです。

そして全員の理解と協力をいただしながら、一層の精進、努力をしていかなければならないと痛感しているところです。

○専攻される指導者に。

指導者は、弓道人の仲間から尊敬され、憧れの人となるために、指導者としての必要な教養と指導力を身につけるとともに、自分に厳しく修練を積み重ねて手本となつてほしいのです。

○高段者は弓道発展に努力を。高段者は、役員として管理、運営の経験を重ねて下さい。

新しい組織になりましたが、前任者の方々も現役員とともに会運営に

努力して下さい。

○競技力の向上を。弓道がスポーツである限り、競技に勝つことが大切なのです。

そのためには、基本的な体力と精神力を養い、絶えざる修練を積み重ねながら競技力の向上を図つてほしいものです。

○弓道人の底辺拡大を。

中学校、高等学校の弓道部の育成と拡大をし、いきいものです。これから次代を背負う人々が卒業後も弓道を志してくることを願っています。

また、生涯スポーツとして一般人のための弓道教室等を開設して、底辺の拡大を図るべく努力して下さい。

昨年石岡弓道会が、平成十四年度社会体育優良団体として文部科学大臣表彰を受賞されました。これは長年にわたる弓道教室の開催で、弓道の普及と発展に尽くされたためなのです。荣誉あることなのでお手本にして頑張りたいものです。

平成十五年度日弓連行事茨城開催は次の通りです。

○六月十二日(木)から
北部地区指導者講習会
○八月十七日(日)
国体関東ブロック大会

全日本弓道連盟理事
全日本弓道連盟審判委員
関東地域弓道連盟会長
日本武道競技会理事

お知らせ

茨城県弓道連盟 名誉会長 紀士八段(故矢吹三郎先生を偲び)左記より連棒射会を開催いたします。

日記

日時 6月28日(土)
9時30分 受付
10時00分 開会
会場 茨城県武道館
会費 千円(受食代)
申込先 海老根芳江
〒311-1206
FAX 099-269-7386
又は、ハガキにて
6月3日まで

主催 ちちなかな委
弓道研究晚餐会

審査のあれこれ

副会長 関根 村夫

全日本弓道連盟では、会員の修練の目安として段級審査又は称号の査定を行い、到達度に応じ段級を認許し、称号を授与する。これは弓道ばかりでなく、他の武道でも同じようである。その目的は、弓道の振興奨励であり、指導者の育成であり、個人の努力への顕彰の意味ももっていると思います。

受審者側からすれば、自分の修練の成果を確かめ、実力のレベルを問う意味があります。目的の段位に合格したということは、そのための努力が認められたということであり、次の目標に向かって更に精進し、次の審査のため勉強することに意義があると思います。

「今度審査を受けるのですが、どのように練習すればよいでしょうか」と聞かれます。審査の稽古法は特にあります。審査のための稽古法は「稽古法です」と答えておられます。が、あえていうならば、審査が近くなったから定められたことを省略しない練習、つまり入場から退場まで審査と全く同じやり方で練習することが効果的だと思います。道着での審査要領、和服での審査要領など立順を替えながら反復練習することが大切で

す。普段は、足踏みから離れまでのマイペースの、射技中心の稽古ばかりでは、審査直前になって「あ、だ、こうだ」とやってみても、うまくいかなさそうだと思います。普段からきちんとした稽古をしていれば、頭の中が白くなるほど緊張していても体が射射の流れを覚えていて迷うことが少ないと思います。しかし審査と同じスタイルの練習といつても、つき合っている限りは、道場の弓友がいても限らないから、道場の先輩にお願ひですとか、近隣の受審者がお互いに誘い合っている稽古も必要でしょう。

審査や競技会の前には、誰でも弓具や服装を念入りに準備するが、思わぬボカをすることがあるので注意したい。こんなことがある。開東選抜選手権大会のこと。いつの頃だったか記憶にないが、綾瀬の東京都武道館が会場だったのだから、そんな中古ではない。競技開始前、中仕掛がゆるい感じだったので、だから少し麻を巻き足したんです。が、まだゆるい。この矢ばかりかなと思つて矢番えてみたら四ツ矢のうち三本がゆるかった。筈が割れかかっていたんです。巻き足さなければそのまま使えばよかったです。を、なまじ巻き足したのだから割れを大きくしてしまつたやうなんで

す。傍にいた久保田先生に接着剤をお借りして、割れの小さい筈をガツチリ固めて何とかきりぬけました。が、さんざんな目にありました。不心得も甚だしいことなので、以降審査には特に注意しております。審査会場で閉会前に確認しておくことは、立順や入退場口、入場から本座への進行コース、学科会場、実科学科の時間割などですが、是非調べておきたいのは道場の滑り具合です。滑りのよい道場は体配が容易

な反面、会・離れで足が滑ることがある。床の状態に応じた足踏みをすれば問題ないはずですが、足ばかり気にしてもいられません。私は滑りすぎた場での審査で失敗し、そうになつたことがあります。その審査会場は二階建ての古い道場だった。ワックスでつるつるに磨きあげられていた。私は左肩の下がる、バランスを崩しやすい胴造りなので、充分注意したのですが矢の離れで、約5cmほど滑つてしまつた。幸いやり直して合格することができた。が、何人かの受審者は足が滑つて的中を逸したとのことだった。こんなことは滅多にあることではないが、全くない話ではないと思います。会に越したことはないと思つて、あのとこの道場は建て替えられたぞうで今はない。そのことがあつてか

ら足踏み胴造りを工夫し、足袋も滑る床では履きなれた古いものを、滑らない道場は新品の足袋を使うようにしており、会・離れで滑ることは少なくなりました。審査では、立順によつては半日くらい待つのは普通ですが、私は自分の出番前は殆ど審査の様子を見たことがありません。目や耳から受ける刺激が強すぎ、心が乱れるからです。同じクラスを受審者の中には、すばらしい弓を引く人がおられます。会の深さや離れの鋭さ、格調高い体配など、強いインパクトで見えて疲れれます。「俺もあのようになりたいやろー」などと思つても、できるはずありません。他人のよいところは、その場で真似て成功するほどは、はやさしいものではないからです。自分の審査が終了からは、反省をこめて見学しておりました。

人間である右の間中央審査を見ておりました。射位で立つ時期をいって感じ、動きを述べたかと思えます。過去の受審者との比較はできませんが、私の予想以上のレベルに努力のあとが著しいと感じました。これは中央の指導、指導陣の皆様に感謝いたしております。初日が六段の審査で最初に感じたことを率直に述べます。最後の日に

審査観戦記

副会長 柴田 猛

ある会場での右の間中央審査を見ていて感じたことを述べたかと思えます。過去の受審者との比較はできませんが、私の予想以上のレベルに努力のあとが著しいと感じました。これは中央の指導、指導陣の皆様に感謝いたしております。初日が六段の審査で最初に感じたことを率直に述べます。最後の日に

ある会場での右の間中央審査を見ていて感じたことを述べたかと思えます。過去の受審者との比較はできませんが、私の予想以上のレベルに努力のあとが著しいと感じました。これは中央の指導、指導陣の皆様に感謝いたしております。初日が六段の審査で最初に感じたことを率直に述べます。最後の日に

練士の審査があり、練士と比較する
と練士受審の方が真剣で皆稽古の
あとが見えましたが、六段は当て気
見え見えの射が多かつたように思
います。
以下に感じたまを述べてみます。

練士審査

- 一、襷さばき、肌入れ、肌脱ぎ動作の練習不足が目立った。
- 二、諸動作を行う場合、自分勝手に動作をする人が結構いる。大前にならば後の人に気を使う。二番以降なら前に気を使うと同時に後の人にも気を使う修練が必要。
- 三、呼吸を使って諸動作を行う習慣が不足しているように思われる。吸う足で動作を起こす修練が必要。
- 四、基本体型のチェック不足。三重十字字、五重十字字、縦横十字字、特に手の内の不十分な受験者が目立った。
- 五、背筋が直わず、小手上による引き分けが目立った。的中を求めすぎる結果と思われる。
- 六、十五の結果、詰合い、伸び合いが十分であり、胸の中筋からの離れが出ない。
- 七、学科審査では、不正行為がある。教本を読んで審査に準てほしい。
- 八、練士受審者が概ね練習の成果は感じられた。

六段審査

- 最初に見た印象
- 一、基本体型が不十分
- 二、背筋、腰、体全形を使って射射しての内の形、働きが不十分
- 三、手の内、前体が目立った。
- 四、詰（詰）ひかない。残身（心）伸に伸びがない。離れが出ず、離れをつくっている（私は、残伸び・残縮とあるが残縮は駄目と教えている）
- 五、一射絶命の稽古がない、心の修行が足りない。
- 六、審査基準を満たす努力なしに、受験資格（経過期間）を満たしたから受審する受審者が多いように思われた。それも稽古のうちと思えばいいのでしょうか。

教士

- 一、六段と同じで、審査基準を満たす努力をしていない。（私は、七段合格後八段は八年後と考えて稽古した。八段を受審してみようと思ひ講習会の折、古沢先生に相談した。柴田先生、水垢るのはいよいよ、しかし先、水垢るのはいよいよ、座禅をくんで努力している人みんな稽古に稽古を重ねているんだからと言われ、さらに努力し、その三年後から受審しました。）

その他

日本弓道は古来より、武射は中、貫、久が真髄といわれた。このことば、射技の基本があつてできること、的中を求めるあまり、射技を十分にマスターせず（巻き薬三年の必要は別にして）的に立つ結果なのでしよう。また、技法と心法があることと教本には述べられているように思われる。

当たる弓でなく当てる弓の稽古に直すには強い意志力が必要である。弓道教室等では楽しむことであり、これも仕方のないことでありますが、いずれ昇段審査に臨むときに壁になると思われますので、心して修練を積んで欲しいものです。私は、見取り稽古、工夫稽古、数稽古をするように。そして試合、審査で自分を試すように初心者指導しています。目標に向かって、一歩一歩前進させることを希望します。

平成14年度講習会を振り返つて

指導部長 庄司 幸夫

会員の皆様には、お元気で申上る稽古にご精進のこととお慶び申し上げます。

平成14年度は、茨弓連専門部役員の大幅な改選が行われ、指導部でも部長をはじめに多くが新メンバーでの運営となりました。1年を経過し、大過無く運営できましたことは、部員はもとより、二指導にあつていただきました先生方や、受講者各位の二協力賜物と、紙面を借りてお礼申し上げます。

さて、平成14年度は指導部の運営にあたり、各段位に応じた体配・射技のレベルアップを図り、県内外の大会、審査に通用する射人を養成する。を年度目標に掲げました。各講習会の1日は従来と同じく「体配指導」「講義」「射技研修」の3部構成としましたが、各回の重点項目は、各段階とも1年4回を通じて年度目標の全体を完了するように配したシリーズの講習会と致しました。各講習会の内容と参加状況は以下のとおりです。

04・21	胴造り（縦線と横線）／入、退場の流れ／弓道の学び方	54名		
09・16	手の内について／入、退場までの各動作／競技（心構え・規則）	85名		
10・26	基本体型／入、退場の向上、失の処理／射法、射技の基本	36名		
11・24	基本体型の確認と手の内／入、退場の一連動作／弓道を入ぶ姿勢	55名		
②四五段講習会	基本とその運行について理解・実践する			
05・25	基本体型／入、退場の流れ、肌脱ぎ・襷さばき	68名		
07・21	八節の運行と手の内の変化／入、退場までの各動作と呼吸／手の内	61名		
11・04	射法／射技の基本／息合いに合わせた体配／審査受審の心構え	37名		
12・07	射法／射技の基本／入、退場までの各動作の確認	23名		
③練士・教練士講習会	空弓講習の射法の修得を中心とし、指導者として必要な教養を身につける（一部教練士会と共催）			
04・20	06・22	10・12	13の4回	射法・射技研修を中心に持

的(二)的射礼/射法、射技の基本/息合いに合わせた体配、称号者として延7、102名

④他に教職員講習会(伝送)27、20名、シニア講習会09・14、14名を実施しました。

改修工事も完了し広くなった武道館で以上のとおり計15回の講習会を開催し、延べ606名(昨年度の約1.5倍)もの多くの方の参加を頂くことができました。

平成15年度は高体連(地区大会・関東大会)・国体関東ブロック大会等が上半期に集中し、講習会の開催日程も大幅に削減される見込みです。指導部としては、より効率的な指導案を作成して運営してまいりたいと存じます。各回の重点指導項目は年度始めに各支部長を通して全會員にお知らせ致しますので、より有効な講習会受講となるようご計画頂ければ幸です。皆様の参加をお待ちしております。

純足となりますが、講習会は基本的な内容の点検・確認の場であり、講習会だけでは成果は実りません。講習会を通じて習得した正しい体配・射技を基本に、更に上を目指した目標・課題を持つて頂き、普段の練習を重ねて頂くことが重要です。その成果を、そのまま大会や審査で表現するには、体が覚えるまで反

復練習をすることです。結果として「平常心」が培われるものと考えます。會員各位には、講習会で得た基本に基きより一層の飛躍を祈念申し上げます。

平成十四年度の審査報告

審査部長 明間 勲

平成十四年度の審査も、審査委員・審査役員の多くの御協力により無事終了する事ができました。紙面をお借りして御礼申し上げます。

昨年度は、多くの受審者(総受審者数二〇〇二人)があり、日頃の皆さんの精進が実り昇段者(総段位合格者数九一九人)も多数でした。おめでとごうございます。詳しい報告は別紙の表を御覧下さい。

昨年度一年間審査を担当しての課題を上げます。

一、十五年度から審査請求書を統一化したいと思います。現在、県内請求書と全日本弓道連盟の請求書が使用されていますが、今年度より全日本弓道連盟の請求書で統一します。審査請求書は、三月の代議委員会でお渡し致しますので御協力お願いします。

二、連合審査については、関連各地で実施された後、茨城県の連合審査の間が短い為、に毎年受審者

が少ないので、十五年度より十月に実施予定としました。

三、中・高生の十一月の審査が多数の為、審査を段位と無指定の二回に分け実施し、年間五回としました。

四、学校が週休二日制に伴い、中高生の部活動も盛んになり弓道場又弓道部も必要と考えられます。弓道場の増加にはまず、設備(弓道場)と指導者が県内各地に必要なと思います。

以上

平成14年度 受審者一覧表

	無指定	初段	二段	三段	四段	五段	合計
申請	882	457	356	185	84	95	2,059
欠員	22	15	6	7	0	7	57
受審	860	442	350	180	84	88	2,002
合格	135	398	295	50	27	14	919
合格率	15.7	90.0	84.3	27.8	32.1	15.9	45.9
無指定	1億598	2億127					

施設部より

施設部長 関口 宇一郎

平成14年度は全国高等学校総合体育大会弓道の部が県武道館の弓道場で開催されました。

会場整備については関係機関や関係者の大変なお骨折りがありましたが、15年度は関東ブロック弓道競技大会をはじめ関東北部地区指導者講習会や各種大会・審査会がぎっしりと予定されています。係としては万全を期して準備を進める積りです。

道場利用者は用具の取扱い、特に使用した砂を取りはらい保管場所へ砂を持ち込まないこと。あづはよく整備して次に使用する人達に負担をかけぬようして置くこと等基本のマナーを守って頂きたいと願っています。

四 全関東地域指導者講習会 (H15 3 / 8・9 宇都宮)

中井川 一郎 練士六段
柴原 利子 練士六段
中島 鉄郎 練士五段
堀 史 練士五段
駒場 孝司 練士五段

五 第53回全日本男子選手権大会 (H14 10 / 4・6 東京)

久保田 清 教士八段
張替 謙一 教士七段
安藤 延典 教士六段

六 第35回全日本女子選手権大会 (H14 10 / 4・6 東京)

市毛 道子 教士七段

七、年輪ビック大会 (H14 10 / 19・21 郡山)

二、関東北部地区指導者講習会 (H14 6 / 22・23 宇都宮)

荻原 裕一 教士七段
安藤 延典 教士六段

一、東部女子講習会 (H14 6 / 21・23 札幌)

安藤 明子 練士六段
荻沼 信子 練士六段

石川 崇之(取手)

佐藤 至孝(玉造)

川野道彦(日立電線)

岡戸 栄子(友部)

根本 信哉(日立み立)

根野美智子(日立み立)

中山三十夫(石岡)

古林 秀子(潮来)

八、第53回全日本遠的選手権大会

(H14 10/25) 東京

市毛 道子(教士七段)

石井 幸子(練士五段)

平戸 信行(練士五段)

小沼 勝則(練士五段)

昇段昇格者

練士

(H14 7/7) 仙倉 佐野 陽子

(H14 7/7) 仙倉 栗崎 武志

(H14 9/14) 埼玉 小松 良美

(H14 9/14) 埼玉 小松 正幸

(H14 9/14) 埼玉 等原 忠幸

(H14 10/3) 徳川 鳥井 士郎

(H14 11/30) 京都 萩野谷綾子

(H14 12/22) 東京 福地 平

(H14 12/22) 東京 大峰 芳樹

(H14 12/22) 東京 小堀 富男

(H15 2/7) 東京 北村 利夫

6段

(H14 9/15) 埼玉 柴原一利子

(H14 9/29) 郡山 郡司 武満

8段 (H14 5/5) 京都 久保田 清

県外大会入賞

一、全日本女子選手権大会

(H14 10/4) 6 5位 市毛 道子

二、明治神宮奉納全国大会

(H14 11/3) 3位 柴原一利子

称号者の部 10位 石井 誠

三、第40回関東教職員大会

(H14 6/30) 団体1位 茨城A 個人2位 高橋 義之

四、高知国体 (H14 8/21) 24 1. 男女総合天皇盃 7位

2. 女子総合皇后盃 4位

3. 成年男子近的 2位

4. 少年女子種別総合 2位

5. 少年男子種別総合 8位

褒状授与者

◎茨城県教育長褒賞

◎茨城県体育協会会長表彰

国民体育大会(団体)

一、少年男子 8位

監督 芝 弥寿子(土浦工業)

選手 園部 亮太(石岡商業)

選手 長尾 晃輔(土浦三高)

選手 美濃 智明(土浦工業)

二、少年女子 2位

監督 斎藤千代子(石岡商業)

選手 高野 智裕(石岡商業)

選手 友部 那美(石岡商業)

選手 岩瀬由香利(石岡商業)

◎茨城県教育長褒賞 (H14 11/3)

明治神宮奉納大会称号者の部

3位 柴原一利子

◎体育功労者賞

中村 太(阿見町体育協会)



(会長挨拶参照)

機関誌弓道の「客だたよ」の記事作成にあたって

優勝者や本文で取り上げられている人や物などの掲載をいたします。

見出しについて

行事名が見出しになっていました

が、行事名は本文に含めていただき、読者に興味を引くような一言を

本文から抜き出して、10文字以内長

くても12文字で各原稿に見出しをつ

けて下さい。

※機関誌「弓道」で4月号から新

コーナー、読者参加の「ザ・論点」が

スタートしました。毎月テーマを編

集部で決めて掲載されています。詳

しくは弓道誌をお読みいただき、ふ

明ですので、県の射会なら「第×回

県月例射会」と表現して下さい。

人物名の表記について

本文中に登場する人物名は、全てフルネームで役職名も必ず記入して下

さい。

大会成績のまとめ方について

団体戦は、チーム構成員名(一

)に記入して下さい。1位はフルネー

ムで2位、3位は姓のみします。

個人戦は1、3位までフルネームで

記入して下さい。

お悔やみ

平成14年7月5日 逝去

矢吹三郎氏

平成15年2月28日 逝去

吉成正俊氏

（氏名委員会 絶筆八段 いただき後 五） 大子支部長



平成13年度 大会追加

大会名	月日	表彰	第一位	第二位	第三位	最高得点	優秀賞
新春射会	H14/1/20	3段以下の部 4、5段の部 称号受有者の部 会長賞	中野 紀子 小松 正幸 高橋 輝子 小松 正幸				

平成14年度 大会一覧

大会名	月日	表彰	第一位	第二位	第三位	最高得点	優秀賞
春季大会	H14/4/14	個人男子 個人女子 称号者の部 団体の部 団体優勝 個人優勝	栗崎 武志 浜野 悦子 川瀬 政人 土浦 亀城 取手 B 小堀 富男	小堀 富男 斎藤 ミユキ 小沼 勝則 千代田 B 玉 造 B 岩田 隆志	市毛 克哉 倉本 禮子 庄司 幸夫 鹿 嶋 鹿 嶋 菊地 俊和		
勤労者県予選会	4/28	団体 個人	三菱化学鹿島 諸橋 昭	日立電線			
県選手権大会	5/26	称号者の部	張替 謙一	萩沼 信子	福田 長作	張替 謙一	
県民総合体育大会	6/16	成年男子(3段以下) 成年男子(4、5段) 成年女子(3段以下) 成年女子(4、5段) 称号受有者	後藤 裕一 菊地 俊和 和田 恭子 萩野谷綾子 石井 誠	石毛 和之 伊藤 富男 明間 三恵 西野 文子 介川 達	染谷 学 小松 正幸 野木裕見子 浜野 悦子 関根 村夫		
県選手権大会	6/23	3段以下の部 4、5段の部	田中 広海 池田 秀臣	谷池 公治 菊地 俊和	松村美由紀 大貫富士夫		初段 鈴木 博子 2段 田中 広海 3段 後藤 裕一 4段 菊地 俊和 5段 小松 正幸
遠的全日本予選会	6/29	男子の部 女子の部	菊地 俊和 大川原育美	小沼 勝則 石井 幸子	小泉 民男 祖父江恵美		
青年大会、全国予選会	8/18	団体	鹿 島 郡	久 慈 郡	日 立 市		
第26回中野杯記念大会	9/15	男子の部 女子の部 称号者の部	松本宗太郎 小林あゆみ 石井 誠	高野 敬光 寺門 奈美 福田 長作	古橋 孝将 高野倉雅代 久保田 清		
段位別大会	10/19	2段以下の部 3段の部 4段の部 5段の部 称号受有者の部	宇佐見 右 堀 清治 萩野 淑江 緑川 慎二 石井 誠	沖田 紀子 山本 賢作 斎藤 ミユキ 川崎 美香 市毛 道子	鈴木 宏典 古橋 孝将 中座 由行 池田 秀臣 山村 晋		沖田 紀子 佐藤 孝至 斎藤 ミユキ 山崎 芳美
武道フェスティバル	11/10	一般の部 称号者の部	根本 鈴子 萩沼 信子	泉 正宏 久保田 清	菊地 俊和 川瀬 政人		
支部対抗	11/16		ひたちなか済B	玉 造	藤 代 A 藤 代 B		
新春射会	H15/1/19	3段以下の部 4、5段の部 称号受有者の部 紅白戦	安達奈緒代 菊地 俊和 石井 和子 白 組	紅 組			

県内地方大会

土浦まつり大会
とき H14・4/6・7

ところ 土浦市武道館
参加者 中学生 73名
高校生 275名
一般 126名

団体一位 取手C
団体二位 下館D
団体三位 波崎町

第31回村松山大会

とき H14・4/7

ところ 東海村総合体育館
参加者 小学生 20名
中学生 126名
高校生 206名
一般 74名

表彰
中学生の部
一位 椎名まり絵(竹来)

二位 船木 未織(竹来)
三位 浅野 英樹(竹来)

高校生の部(男子)

一位 長尾 晃輔(土浦三高)

二位 園部 亮太(石岡高)

三位 吉岡 昭平(竜ヶ崎一高)

高校生の部(女子)

一位 小林 由佳(竜ヶ崎一高)

二位 岩瀬 由香(石岡高)

三位 友部 那美(石岡高)

優秀校 石岡高

一般の部

射詰 赤嶺 幸子(取手市)

一位 田中 功平(千葉市)

二位 小沼 勝則(波崎町)

三位 浜野 悦子(下館市)

表彰

射詰(中・高・一般)
佐々木奈穂美(佐和島)

小学生の部

一位 小泉裕太郎(石神小)

二位 金澤健太郎(舟石川小)

三位 仲田 克紀(石神小)

四位 井之上瑞己(村松小)

五位 村上 浩平(白方小)

敢闘賞 神長 慶輔(東海中)

一位 齋藤 良輔(日立一高)

二位 大内 正臣(水戸一高)

三位 山田 康博(水戸一高)

第12回山きくら大会

とき H14・4/21

ところ 新治村国谷風遊館
参加者 92名

表彰

射詰 久保田 雄(土浦工業高)

一位 足立 喜次(八郷町)

二位 助川 忠雄(新治村)

三位 飯泉 順子(下館市)

金の賞

鈴木正太郎(下館市)

稲石 京子(土浦市)

宇佐美 右(水戸市)

第23回神栖町大会

とき H14・5/19

ところ 神栖町武道館
参加者 高校生 54名
一般 69名

表彰

射詰一位 美濃 智明(土浦工業高)

射詰二位 菊池 政行(土浦工業高)

一位 岩田 聖子(鉾田一高)

二位 美濃 智明(土浦工業)

三位 印南 健太(銚子西高)

団体一位 土浦工業D

一般の部

射詰一位 平須 賀功(波崎町)

射詰二位 宇佐美 右(水戸市)

一位 平須 賀功(波崎町)

二位 小沼 勝則(波崎町)

三位 野口 昭一(神栖町)

団体一位 友部町

第40回奥久慈記念大会

とき H14・10/26

ところ 県立大子二高弓道場
参加者 85名

表彰

高校生の部
一位 小田部 惠美(大子一高)

二位 石井 妙幸(大子二高)

三位 高信 暖子(大子二高)

一般の部
一位 萩谷 好浩(ひ・勝田)

二位 根本 億哉(日立)

三位 青成 正俊(大子)

四位 堀江 栄(大子)

五位 根本 鈴子(ひ・勝田)

余興の部
余興の部
堀江 栄(大子)

金の
銀的
釣的
りんご的
王前 一郎(山方)

第9回県南大会

とき H14・11/23

ところ 取手市グリーンズスポーツセンター
参加者 205名

表彰

高校女子
一位 長南 瑛子(土浦工業)

二位 山内 翠(土浦一高)

三位 石引小百合(土浦二高)

四位 田崎 綾子(土浦工業)

五位 友常 淳美(石岡一高)

高校男子

一位 白土新太郎(土浦一高)

二位 岡田 陽介(霞ヶ浦高)

三位 吉岡 薫(守谷高)

四位 高津 裕郎(土浦一高)

五位 山崎 康太(霞ヶ浦高)

一般三段の部

一位 関口 信夫(取手市)

二位 古橋 孝将(藤代町)

三位 宮本 雪乃(成田市)

四位 内山 覚(土浦市)

五位 松田 知子(土浦市)

一般四段以上の部

- 一位 木村 嘉隆(取手市)
- 二位 福永 弘(藤代町)
- 三位 大波 正(八郷町)
- 四位 荻原 裕一(友部町)
- 五位 桜井 聡(藤代町)

技能優秀

- 四位 石塚 智美(八千代高)
- 五位 岡田 尚美(下館二高)
- 高校団体 境高A
- 高校男子 吉田 盾(境高)
- 高校女子 大内 真澄(下妻)高

表彰

団体男子

- 一位 東海南中
- 二位 城ノ内中
- 三位 城西中
- 四位 清真学園中
- 五位 茨城中

第26回 中野杯優勝旗争奪大会
(中学生の部)
とき H14・8/6
ところ 茨城県武道館

中学校新人体育大会
とき H14・11/5
ところ 茨城県武道館

表彰
団体男子

- 一位 城ノ内中
- 二位 水戸二中
- 三位 内原中
- 四位 明光中
- 五位 東海中

第22回西大会

とき H15・1/5

ところ 五櫻館

参加者 高校生 180名

一般 69名

表彰

高校団体の部

優勝 境高A

二位 守谷高A

三位 下妻一高C

高校個人の部(男子)

一位 吉田 盾(境高)

二位 渡辺 拓也(水海道一高)

三位 佐藤 博行(境高)

四位 飯沼 拓也(守谷高)

五位 塚田 康太(下妻一高)

高校個人の部(女子)

一位 三宅 恵(石岡一高)

二位 安達 優子(岩瀬高)

三位 内田 理恵(土浦工業)

一般の部(有段者の部)

- 一位 羽石 幸一(真岡市)
- 二位 高橋 啓市(守谷町)
- 三位 鈴木正太郎(下館市)
- 四位 小野田文郎(下館市)
- 五位 稲見 真人(下館市)

称号者の部

- 一位 中嶋 鉄郎(境町)
- 二位 小武内弘子(神栖町)
- 三位 藤平 光一(真岡市)

技能優秀

有段者の部

柴 弥寿子(土浦工業高)

称号者の部

中嶋 鉄郎(境町)

中学校総合体育大会

とき H14・7/22

ところ 茨城県武道館

個人男子

- 一位 立若 信秀(東海南中)
- 二位 横山 祐紀(東海南中)
- 三位 井手上 敬(清真学園中)
- 四位 渡辺 大樹(竹来中)
- 五位 川戸 健司(東海南中)

個人女子

- 一位 路川恵利加(茨城中)
- 二位 渡辺ゆかり(阿見中)
- 三位 椎名まり絵(竹来中)
- 四位 原田 瑠子(水戸二中)
- 五位 松崎 静香(阿見中)

団体女子

- 一位 千波中
- 二位 内原中
- 三位 東海南中
- 四位 土浦一中

個人男子

- 一位 立若 信秀(東海南中)
- 二位 大野 知之(清真学園中)
- 三位 加治 大和(東海南中)

個人女子

- 一位 岩下朋友美(竹来中)
- 二位 上榎 直子(城ノ内中)
- 三位 井上明日香(東海南中)

団体女子

- 一位 水戸二中
- 二位 阿見中
- 三位 城ノ内中
- 四位 稲田中
- 五位 竹来中

個人男子

- 一位 成田 順郎(城ノ内中)
- 二位 山下 浩平(水戸二中)
- 三位 渡辺 俊人(竹来中)
- 四位 高橋 義史(城ノ内中)
- 五位 白土 正洋(水戸二中)

個人女子

- 一位 原田 瑠子(水戸二中)
- 二位 内野 詩織(阿見中)
- 三位 関 あかり(阿見中)
- 四位 久保 成美(竹来中)
- 五位 大本 紀恵(稲田中)

二〇〇二年 茨城総体 平成十四年度 全国高等学校総合体育大会 第四十七回 全国高等学校弓道大会



競え友よ 熱き力を 茨城で

と き：平成14年8月2日(金)～5日(月)

と こ：茨城県武道館弓道場



ありがとうございました

財団法人 全国高等学校体育連盟

弓道専門部長 横山 英記

「競え友よ 熱き力を 茨城で」をテーマに八月二日～五日の四日間、第四十七回全国高等学校弓道大会が思い出多き大会として盛會裡に終わりましたことを心よりお慶び申し上げます。また、永年、今大会の準備等にご苦労されました関係者の皆様に対して深くお礼申し上げます。

顧みますと、発展的獨創性をもとに競技運営や大会参加者へのきめ細やかな心配りが随所に見られましたことは、偏に全日本弓道連盟並びに茨城県弓道連盟の先生方のご協力、ご指導があったからこそのご思存です。今後共、高校弓道育成・発展のために高体連弓道専門部にご指導をいただければ幸いです。

最後になりましたが、今大会で補助役員としてお手伝いいただきました高校生諸君に感謝申し上げますとともに、茨城県弓道連盟、茨城県高体連弓道専門部がますます発展されますことをお祈り申し上げます。

全国高校総体を終えて

茨城県弓道連盟

副会長・理事 長 木村 喜久雄

二〇〇二年茨城総体は、「競え友よ 熱き力を 茨城で」をキャッチフレーズに高校生二人一役の総参加のもと、弓道競技が八月二日～五日の会期で熱戦が繰り広げられました。

弓道競技の主管を預かった高体連と補佐的立場にあった茨弓連は、競技運営補助の高校生と共に協力し、大会を成功へと導くことができました。中でも、一人一役を担った高校生々の表情や接遇態度は誠に清々しく、来県された選手・関係者の評価は高いものでありました。

県勢の成績は、射形・体配ともにAクラスと目され期待のあった佐和高校をはじめとする茨城県の出場チーム・個人は、善戦空しくもう一本が足りず、半ばにして敗退はしたものの、全国高校生のトップレベルに並ぶほどの演武ができ、満足するものがありました。

茨城の高校弓道の今後の躍進を期待してやみません。



入賞一覽表

男子個人

	No.	選手名	学校名	都道府県名	監督名
優勝	19	榎本 篤郎	津商	千葉	鈴木 宏
2位	69	假野 義文	鹿屋中	鹿嶋	山本 隆夫
3位	67	野口 翔	濟々	熊本	杉野 義道
4位	39	吉田 憲治	福島西	福島	野中 文彰
5位	66	榎原 直裕	神戸業高	兵庫	中村 文仁
6位	26	甲斐 雄也	戸崎高	宮崎	岡井 吉光
7位	8	志賀 裕之	宮幸高	愛知	岡北 洋一
8位	83	吉田 耕平	鹿島	美佐	熊本 哲美

女子個人

	No.	選手名	学校名	都道府県名	監督名
優勝	27	由紀 美	佐産科	大分	西田 圭介
2位	6	幡村 弘美	秀岳	大熊	福田 到子
3位	84	松井 愛美	小松高	石川	奥野 洋
4位	17	宮城 美妃	小江	小川	志野 瞳子
5位	79	美鶴 昌美	尾津	川根	具本 智
6位	19	西川 知恵	小江	津島	高根 葉
7位	64	関 尚美	観	千香	高川 陽
8位	57	廣澤 麻美	如水	館	北来 智恵

全国大会を終えて

茨城県体育連弓道専門部長
嶋 武元

去る八月二日から四日間の日程で行われました、インターハイ、第四十七回全国高等学校弓道大会は、お除をもちまして無事に終了しました。大変暑い夏のなかで、したが、天候にも恵まれ、大きな運ができて、開催の責任を果たすことができました。これは関係者の協力と念を準備、武道館という恵まれた施設を全面的に使用できたこと等の賜物であり、ご協力いただいた皆様、心から感謝いたします。

大会は、男子団体戦で、二十射皆中が連続するなど、男女ともに記録的なハイレベルの競技が展開されました。女子団体に技能優秀選手校がなかったことは残念でしたが、選手の日頃の修練の中への強い意欲を感じさせる、まさに大会ローガンの「熱き力の競い合い」が繰り返り、熱い、参加者の心に感動が強い印象を残した大会であったと思います。この大会は茨城の高校生にも大きな刺激となりました。特に、大会に参加した高校生にとっては得難い体験として水に残る、ことと思います。今後は、この大会の経験と成果をもとに、高校弓道の一層の発展に生かすことが課題であると考えております。

終わりになりますが、会長の関先生始め県弓道連盟役員の皆様には多大なご指導、ご協力を賜りましたこと

心からお礼申し上げます。今後とも高校弓道の発展のために、ご指導ご支援をお願いいたします。

茨城県高等学校体育連盟
弓道専門部委員長
勢司 利之

平成十四年度全国高等学校総合体育大会が、第四十七回全国高等学校弓道大会が、八月二日から五日までの四日間、茨城県武道館弓道場で開催されました。

「競えよ、熱き力を、茨城で」のスローガンのもと、全国から二四二校七三二人の選手と監督二四六人の参加を得ました。競技が行われたが、スローガンの文字通りに連日熱き競い合いが展開されました。大会は男子団体、神奈川、鹿嶋、義塾高等学校、女子団体が香川、観音寺第一高等学校の優勝をもって幕を閉じましたが、男子団体、鹿嶋、加治木工業高等学校の二立ち連続二十射皆中と素晴らしい記録を筆頭に、いずれも見応えのある戦いが繰り返り続けられました。惜しくも入賞は逃しましたが、本県選手団も個人・団体ともほとんどの出場者が予選を突破し活躍してまいりました。

試合初日多くの一般観客の方々が会場に向われ、仮設観覧席に入場して長蛇の列ができてしまっています。急遽、入場制限や観戦入れ替えを行わざるを得ないほどの盛況ぶりでした。

県弓道連盟の皆さんを含めた三五人の役員と補助員生徒三三七人の協力によって、今大会は運営されましたが、皆さんには大会の準備段階から競技運営終了まで連日汗だくとなって係任事に携わっていただきました。早朝から夜半まで苦勞を厭わず駆け回っていた皆さんには本当に感謝するのみです。

とりわけ全国の選手心を込めて迎え応対してくれた補助員の高校生には多くの方々からその態度にお褒めの言葉を頂戴いたしました。茨城の高校生は、この喜びに堪えせんことを祈ります。

おそらく全国大会の運営は一生一度の体験です。今大会が思い出多ければということ弓道に携わる生徒がこれを機に今後ますます増えれば、二つの思いが重なっております。

本大会を開催するにあたり、関会長を始めとして茨城県弓道連盟の皆様方には多大なるご援助とご助言をお礼を申し上げます。ここに厚くお礼を申し上げます。

また、今回大会は茨城県武道館施設をフルに活用することができたおかげで移動の負担がなく全日程を消化し終えることができました。茨城県武道館職員の方々のご配慮にも感謝申し上げます。

来年度は関東大会が本県で開催されます。今年来年と茨城の高校弓道がさらに発展するよう頑張りたいと思っております。

皆様、大変ありがとうございます。今後ともよろしくお礼申し上げます。

高校総体を取材して

広報 濱野 昇

今年から茨城県弓道連盟の広報係

が部に独立し、5月に部員が集まり作業分担・広報活動方針・部員の抱負等が話し合われた。その中の1部に高校総体の取材が含まれており、また、この取材については介川広報部長も積極的であった。

こんな背景があり部長より、部員に対し数週間前に取材要請については協力依頼が郵送されてきた。

それを受け、総体の全体日程、8月2日の開会式に始まり、3日の試合第1日目、4日の試合中日・5日

の決勝戦と閉会式と4日間行われ、私は8月3日と5日の2日間取材に出掛けた。

幸い天候は、4日間とも好天に恵まれこれ以上の天気はないと思うほどであり暑さもない夏の最高気温を毎日塗り替えていた。会場には9時を大分過ぎた頃到着した。家を出る時から駐車場の確保が懸念されたが2日間ともスムーズであった。

8月3日第1回取材の会場の様子は、多くの選手と応援の人達で埋め尽くされ、どこへ行っているのか、射場には入れず、観覧席にも入れず、大道場は選手監督の控え室になっており屋内は一切入れない状態であった。

幸い、当日射場審判を行っていた部長が、審判交替の休憩時間以外の様子を見にきた所で顔を合せ、対策を講じてもらい取材活動ができた。

会場での主な印象は、いつも奇麗に芝の養生を行っていたあのラグビー場に、テント張の仮設練習場が出来、48個が懸けられた風景は見事であった。

また、応援に駆けつけた人達も、自分の応援する選手を一目観ようと、あの暑いなが長い行列を作り静

かに待っている様子、それを一生懸命整理する役員が印象に残った。

一方大道場の選手控え室では、巻蹴を練習する選手・道具の手入れ点検をする選手・車座になり監督からミーティングを受ける選手・我が県代表の佐和高校の選手は高野先生を

てあるのを見つけた。グルーブは不在でしたがちよつと気になり、きつと尾崎さんも同じだったのか足を止め、どのような選手達かなと話している、まもなくグループの人達、すなわち御札の持ち主であるM高校の女子選手達が帰ってきました。

雑談の中で御札は後輩が用意してくれたとのこと、早めに水戸入りし試合に臨んでいること、試合近頃の練習は矢数より丁寧に集中した射を心掛け、1日20射前後の矢数にしたなど話してくれました。その内選手の誰かがお参りしましょうと、声を掛けると皆素直に、そして屈託なく手を合わせていました。

健闘を祈り、その場を離れたのですが、幸い予選を通過したとのニュースが入り、取材が試合の邪魔にならずホツとした1日目でした。

2回目の取材は、大会4日目決勝戦・閉会式の日でした。今日は前回取材を残した各係・役員、表に出ない陰の活動記録の思い、総合受付・大会本部・記録係・救護班・的前審判・仮設練習場運営係等を写真に納めました。部長も裏方の活動記録を強く指示していました。

今日も会場に入るまで、先日の取材時の、あの観覧席の行列と人混みを連想していましたが、意外にも人は少なく静かで、観覧席も自由に入り方ができちよつと拍子抜けの感じ、良く考えれば予選落ち組は皆帰りの会場です。

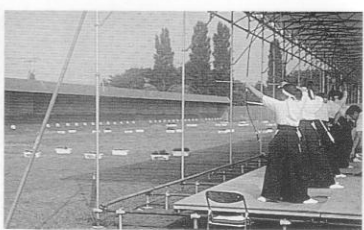
ビデオカメラ持参で会場を一回りする事にしました。初日に比べ各係も仕事に慣れたこと・作業の量がビデオ時に比べ少ないこと・終了も近くあの開始時の緊張感から開放され、



練習風景 その1

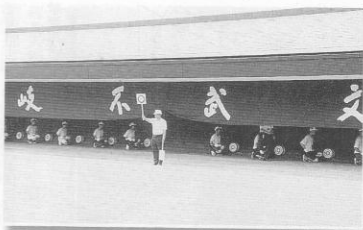


練習風景 その2



練習風景 その3

絶的(あたり!!)



また、何年も準備に掛かったこの高校校体の終わりに、名残をおしむ余裕も感じられました。

各係を訪れ、広報部の記録写真を撮らせて下さいと断り、撮影させてもらいました。どの係も気持ち良く対応してくれ、ほんとうに有り難うございました。

係・役員の方々の共通した感想は、今回の特別な機会、リハサルから大会期間中と期間が長いこと、毎朝集合が7時と早い事等で大変ですと話していました。

一方会場周辺の応援に駆けつけた父兄は全国で、岡山から自家用車で来た夫婦は、前日の昼頃家を出発し友部インターに午前2時頃到着し、仮眠の後、袋田の流を見物し武道館会場にきたとのこと、決勝に残れば宿も予約してあり応援を続け、負ければ箱根見物でもして帰る予定でいること、14時近くのインタビュでしたが、まだ息子と対面していない、息子の試合まではまだ時間があるので今から、少し仮眠したいとワゴン車の荷物を整理しながら話してくれました。

秋田から娘の応援にきたご夫婦は、茨城に親戚があり良く茨城県には来るそうで、決勝戦前の応援は来るところ、そして子供は今年2年生だそうで、来年も楽しみにすねと、声を掛けると、是非来年も娘に頑張ってもらいたいと話していました。

福井からきたご夫婦は8月2日19時に家を出発、3日の午前2時に友部インターに到着とのこと、4日漸く宿が確保できたとのことでした。このご夫婦は試合の合同を利用し、こまめに市内観光をしたそうです。子供の弓道を応援して、弓道をど

う思うか、ご自分で弓道をやる気はありますか聞いたところ、即座に無いと返ってきました。取材の終わりに子供さんの健闘を、お祈りしますと挨拶をすると、嬉しそうに有り難う御座いますと返ってきました。

県外からの応援の人達は、皆宿が確保できず苦労されたそうです。今回の取材は、広報部員総出で賑やかに、そして楽しく取材が出来ると思っていました。部長が役員で期間中広報活動が出来ないのは、事前情報が入っていましたが、多いに取材活動を期待していた堀江部員、星部員と取材中に役員として顔を合

せ、取材活動が出来ないのを知り、不安を感じました。しかし、尾崎さん・綱川さん・小林さん・入江さん等、部員の姿が会場に見え安心いたしました。今回の取材中、関会長、木村理事長には取材活動に理解を頂き、絶えず激励を受け、楽しく取材活動が出来ます。広報部一同お礼申し上げます。どうも有り難う御座いました。

インターハイ・弓道競技に思う
常総学院高校 加藤 善子

私はボランティア活動の一つとしてインターハイ・弓道競技を支援することにしました。

待ちに待った大会での前審判補助員の一人として運営に携わることが喜ばしく思われた。

緊張の連続の中、私も活動している一員であることを意識されられ、また、励まされて無事務められたことに誇りを持った。私の選択が間違っていないか。私のように多くの仲間が心を一つにして大会を盛り上げ、茨城大会を切り盛りしていることが愉快でたまらない。

代表選手の晴れがましい姿に、同じ高校生としてワクワクするものがあり、きつと頂上に昇りつめて欲しいと願った。参加して一人一人の懸命な行動する姿勢に、スローガン「競え友よ熱き力を茨城で」が重なり鼓動する胸の高まりを禁じえなかつた。

私は今回の経験をとても貴重なことであつたと感じている。これからの弓道部員としての活動、学校行事やH・R活動においてもこの経験を

生かし、実りある高校生活を楽しんでいこうと思つている。

補助員はピンチヒッター

水戸二高 遠藤 真央

ピンチヒッター、思いもけないことに私は友人の代役として補助員になった。運営部補助員で飲料水の配給が割当てられていた。

業務に関わりかけたことは二つ。一常に笑顔と絶やさず「冷えた飲料水を求めに応じて提供すること」に留意しました。気を引き締め、共に運営業務に従事している仲間を気

カンパレ!!



選手控室(祈り)



選い、立場を弁えた心配りを学習できたことがよかった。

大会を支援して良かったことは、「楽しかった。」のひとこと。ピンチヒッターがレギュラーのポジションを得て楽しんだ。まさに思いがけない一夏の体験でした。

インターハイのボランティアで
井当係をした 高校生Aさん

最初、井当係はただ井当を配るだけの楽な仕事だと思っていました。けれどもやってみると井当を配る数は多いときには千個以上もあるし、ただ配るだけではなく最後に井当

箱の回収もしなくてはならなくて、筋肉痛になるほどでした。井当を配るのも時間が決まっていて、その時間帯は特に忙しかった。

また私は井当係の他にも総務の係の手伝いもしました。これは出入り禁止の場所に人が入らないように見ているのが仕事でしらが思ったより大変でした。このように二つの仕事をやってみてこのインターハイで楽な仕事というのはないだろうと思いました。四十七年に一度という記念すべきこの年にインターハイの補助員の一人として役に立てたことをうれしく思っています。

高校生Bさん

このような大きな大会で仕事ができるとも楽しかったです。お井当を渡すとその他の役員の人たちや選手の人たちと話しができたりして親近感が感じられ、楽しくできました。今後はあまりこのような経験はできないと思われるので参加して良かったと思います。

インタビュ―

広報 小林恵美子

富崎県 妻高校

7月31日 水戸入りし宿は三の丸ホテルにとりました。今まで一番井当はさくら



良く選手共々疲れがとれました。毎日の練習は2、3時間で午後5時、7時半頃まで練習します。おもに個人指導を大切にしているとのこと。

男子は4年連続、女子は7年連続インターハイ出場している。応援には、お母さんとお姉さんが飛行機にてかけつけとのこと。

お姉さんもインターハイに出場し、妹さんも今回出場しているのでいつしよに来ました。お話を伺いしたところ弓道を始めて精神的に強くなりました。辛くとも頑にださなくなり、人間的に成長しました。弓道部に入るにあたり必ず3年間続ける事を約束させました。

先生から一言
8月3日の夕方近く、試合の時応援席からフラッシュがたかれまぶしくて気がおさまらなりました。ありがとうございました。

◎東京の慶応大学の女の先生は出身校の山口県岩国高校の応援にかけつけました。水戸駅のインターハイの案内係の高校生の対応がとても良かったと感心しました。

◎愛媛県北条高校(教師)インターハイ会場はとても快適で今まで一番良い施設だと感じました。選手達は毎日40、50射近く練習を重ねているそうです。

◎茨城県牛久(女子高校生)選手の方々は皆すばらしいです。私達一年生は、まだ何もわからないけれど離れがすごいと感じました。

広報 尾崎 芳子

熱い声援と戦いが繰り広げられている会場とは対称的に、人の姿もまばらな遠の場では、心を込め丁寧に紙を貼っている生徒の姿がありました。

練習会場に設置された48個の的も加え毎日60個近い数になります。

こうした力がインターハイ成功に結びついたでしょう。

この人達が裏方で支えました





百八射会とともに

日鉦金属 浅井 敏久

私と日立二高弓道部との出会いは昭和57年頃の同好会の発足に溯ります。

先輩の郡司さんから日立二高の弓道部を復活させたいので、練習場に斯道館弓道場の借用を会社と交渉して欲しいとの要望があり、弓道部長の天川分析課長と佐藤孝日立市議会議員にお願ひし会社の好意で借用することが出来ました。

生徒の指導はOBの郡司さん一人に任せて、意見を求められた時以外は口をはさまなかつたようです。当時二高の顧問は菊池仁一先生で熱心な方だつたと思います。

私は、会社や組合の仕事で遅くなり、道場に顔を出しても誰も居ないことがしばしばでした。

昭和63年秋、部に昇格したときの記念射会で生徒達の坐射の体配が違つたので、今はこのように変わったのかと思つたこともありましたが(変わつていない)。

この年の暮れ郡司さんから、NHK水戸放送局から新年用のビデオ撮影を大晦日の夜に行うからといわれ、その準備中に郡司さんが病気で倒れて内容が分からず、大慌てに慌てたこともありましたが、あつて姉から連絡が

あり私は道場に見ることが出来ず残念な思いをしました。

この射会には特に日立一高生と日立二高生の合同で行ひ、カメラマンとの対応に宮崎康美教士に大変お世話になって行っています。

この夜の百八射会をきっかけに年中行事の一つとして毎年大晦日午後9時から開催し、昨年迄は15回になりました。

平成元年9月からは月例射会を毎月行ひ昨年の12月で157回を数えています。

この射会の目的は、的中は勿論体配、射法を磨くためにあるので、矢渡しも生徒達に行わせて研鑽に努力しています。

一高生を本格的に指導したのが平成4年1月の私の定年退職後から10年が過ぎて行っています。この間、平成6年に水戸の武道館で開催した関東大会で団体、個人の技能優秀賞を受賞したこと、7年に山口市で開催の高校総体に個人部門に参加したことが晴れがましい成績です。

終わりに、生徒の指導にはこれからも今までの信念を曲げずかしく弓道を通じて社会に出て恥ずかしくない教養、知識を身につけさせたいと思ひます。

編集後記

平成14年度は競え友よ熱き力を茨城でをスロウガンに2002年茨城総体、第47回全国高校弓道大会が水戸で開催された。各県代表の高校弓児の若き一杯の戦いぶりに観客が盛んに拍手を送る姿が印象に残つた。我が県連も新しい体勢での一年であったが更なる充実を目指してきたい。編集はまどめの作業が大変でありましたが、多くの情報をお寄せいただいた。より良い紙面を作つていきたいものです。これからも会員各位の御支援と協力を期待したい。なお、インターハイ特集については、今弓連事務局より写真の提供をいただいたことを付記する。

広報部

- | | |
|-----|------|
| 部長 | 介川 達 |
| 副部長 | 宮崎 康 |
| 副部長 | 濱野 昇 |
| 副部長 | 堀江 栄 |
| 副部長 | 池野 久 |
| 副部長 | 網川 香 |
| 副部長 | 入江 進 |
| 副部長 | 尾崎 芳 |
| 副部長 | 高品 正 |
| 副部長 | 小林 美 |
| 副部長 | 星 喜 |
| 副部長 | 鹿角 啓 |
| 副部長 | 高橋 崇 |
| 副部長 | 高野 篤 |
| 副部長 | 中野 文 |